

活躍して、巻町にまた新しいうねりが聞こえ始めました。

## 二年目の春の陣「町議会議員選挙」

住民投票は二月二日から二月五日まで、町営体育館貸し出し不許可などの激しい妨害の中、一番寒い時期に行われましたが、開票結果は総投票数一〇三七八票、投票率四五・五パーセント、原発建設反対九八五四票、賛成四七四票という圧倒的多数の町民が原発建設に反対であると明確に意思表示したのです。投票結果を町長は無視。その感激もさめやらぬ二月一〇日に東北電力は巻町に対して町有地の売却を申し入れたのです。臨時議会を二月二〇日に開催。

こんな横暴は許されないと一部の女性グループは二月一八日から二月二〇日まで抗議のハンストにはいりました。また、私たち「青い海と緑の会」も、町民は怒っている、しかし、その怒りをぶつける場所が無いと「緊急町民のつどい」を開き町民に参加を呼びかけ

たところ、主婦からは、「もう、これ以上、町長や推進派議員に巻町の行政を任せておくことはできない。私たち、主婦もやれることは何でもやるう」と頼もしい発言。高校生からは学校でのアンケート調査結果の報告があり、やはり高校生も原発に不安だという声が多く、「私たちには投票権が無いが大人は大人の責任で次の世代に何を手渡すべきなのかきちんと判断していただきたい」この報告には、思わず目頭があつくまりました。

こんな混迷した巻町の状況の中、「男にだけ行政を任せておくわけにはいかない」「子どもの未来に原発はいらない」と堂々と原発反対を訴え、町議会議員に挑む女性達が現れました。

町議会議員の選挙に四人の女性が挑戦。・・・

(あいさかしげこ 風の子保育園副園長)

## 表紙のことば

表紙をかえました。雪原の陰影を連想されるかもしれませんが。長岡の画家那須高明さんの作品を日本リアリズム写真家集団に属されている荒井肇さんが写してくださいました。たくさん試作品の中からえらびました。お二人の労作です。

「にいがた教育情報」という文字と発行ナンバーの数字のところが色彩がはいります。四季の色になります。研究所創立十周年をひとつの区切りとしての企画です。四一号から以後この表紙で発行させていただくことになりました。

那須さんは長岡の民的文化活動の中心になっておられます。荒井さんは亀田町にある心障者の福祉施設「若葉の里」の所長さんでこれまで多忙の日々を送っておられる方です。その中、短期間でこのお仕事をさせていただきました。心より御礼申し上げます。

(編集長・本田敏彦)